

## 地区別意見交換会(栗山地区) 記録(概要)

開催日時	令和元年9月24日(火)午前10時～午後11時25分		
開催場所	栗山公民館		
出席議員	福田道夫(代表者)	齊藤正三	瀬高哲雄
	山越梯一		
参加者数	13人	(傍聴者)荒川礼子議員・山口栗山行政センター所長・八木澤湯西川地区センター所長他1名	
報告内容	地域のことを教えてください！		
市民意見	議員意見		
<p>県道・市道付近の電線にかかっている枝が結構ある。倒木などで停電がおきないような体制を市をあげてつくっていただきたい。</p> <p>市で公共施設を減らしていく状況の中で、要望書の中に祭りの時のための公共施設を保持することはできないということが書いてあった。伝統文化はこれから保持していかなければならない。市で施設を減らしていかなければならないほどお金がないのであれば伝統文化を継承する方法やアイデアを出してほしい。日向公民館は旧公民館になってしまった。今は借りられる状態だが、あとは壊すものだから補助金も出せないというのではなく、何かしらの取り組みをしていただきたい。かなりそのような例が見受けられるので、議会のほうで調査部会などあると思うが、企画的な部分で検討をしていい方向にしていただければと思う。</p>			
	その公民館で練習をしたりしているのですか。		
<p>練習もするし、本番でも使う。違う場所の集会所でも練習する。川治ダムの受益者の関係で公民館が建てられた経緯がある。みんな一緒になって市の行政改革の中に入っているの、歴史的な部分を考えるとどうかなと思う。</p>			
<p>1つは農産物をつくるにあたって通知が来るのですが、10センチ×10センチの枠組みが、3軒民家が集まって申し込みが成り立つような助成制度があります。それにあたっては、国の助成を受けるからか知りませんが、耐用年数があると思いますが、14年ほど助成を受けていたら、行わなくてはならないということがネックになると思います。例えば、年齢が70歳だと84歳になります。畑などが荒れるというよりはやりづらいです。つまり保護柵をするにあたってのより良い方法がないので、集落においては使っている人が少ないのだと思います。例えば、電柵をやっている方がいます。業者に聞いてみたのですが、網のようなネットになれば、いずれ張り替える時期が来るとなると、つくるときは助成金の3分のいくつかでできるかもしれませんが、張り替える時期が来たら、またそれに携わることができるかどうかということには、クエスチョンマークがついてくると思います。それに代わるものは、例えば、三本線で、あとは10センチ×10センチのメッシュを使って行う場合が長くできると思います。三本線で電柵を高く張るようにする。メッシュの高さが90センチのものだとすると、縦にして180センチで張っている方もいます。その辺を農政に携わる職員も研究してもらわないと。足尾地区などにおいても同じです。私が宇都宮に行ったときにも、イノシシが多くて、そのうちシカが出てくると、まちの中を走り出すときがもう出てくるのではないかと、猟友会の方が言っていました。これは全国的な問題で、そこにきて屋間、まちに押し寄せていることは今市でも実情ではないかと思っています。そういった地区がどこか議員さんはわかっているとは思いますが、そういった防護柵において、もっと身近に活用できる、一軒でも使うことができるものがあればいいと思います。</p>			
<p>もう1つは、地縁登録団地でやらなければ、集会場を直してもらえないという時期に差し掛かっています。今年を入れて5年のうちに、その建物を引き取るか引き取らないかと、その点はどのようなのでしょうか。引き取っても解体する場合には、鉄骨の場合はどうなるのか。どうしたらいいのか悩んでいる人が、多いのではないかと思います。屋根が壊れたときに見積もりをして提出したのですが、今のところ宙に浮いている状態です。屋根の業者に見てもらったところ、雪が降ったらつぶれてしまうかもしれないと言われましたが、受けてもらえるのか。どうしてかという検査に来て直すところと直さないところを見ても、壊してみるわけではないのでわからないのではないかと思います。足尾地区も同じかもしれませんが、栗山地区において建物の引き受けにあたっては本当に悩んでいます。あと4年しかないのです。</p>			

開催日時	令和元年9月24日(火) 午前10時～ 午後11時25分
開催場所	栗山公民館
もう1つは獣害対策で、県民税を使っての獣害対策の助成金がありますが、それを3年前に受けて初年度は業者に頼んで、2年目は自分たちで行いました。今回の3年目も自分たちで行っています。あと3年のうちということは、引き受ける、引き受けられないのは4年のうち、あと3年を獣害対策として自治会で契約しているからやらなくてはならないわけです。そうすると残り1年になります。ですから、どうなってしまうのかと思います。集落によっては、これからどうしたらよいかの話合いが行われています。遠くの1カ所にまとめるということもありますが、集うところがなくなるのですから、身近なところに残してほしいと、意見も2つにわかれていきます。1カ所に集約しても、こちらでは集うところがなくなり、歩いてはいけなし、送ってもらえないし、タクシーなど乗り合わせで行くこともできないのだから、遠くにつくっても意味がないと思います。集まってくださいと言われても、それは無理です。ですから、いろいろな点で、とにかく交錯していると思います。ますます上に立っていく方がつらくなっていくと思います。役だっているいろいろ持っています。	
	足尾の場合も同じ。自治会長さんは大変なので、とりあえず、担当に来ていただいて皆さんの前で説明を受けた方がいいのではないのでしょうか。
それをぜひお願いします。各集落に帰ってから説明をしても温度差がある。	
	山間地域の足尾や栗山はコミュニティが崩れてくる。
川俣にしてもここに集うところがなくなって、今後どうするかというところまでできている。	
	今市の八日市でつくっているものは3,000～4,000万円で、市で500万円を出してくれるが、残りは自分たちで出す。それと比較するという話になるが、背景が違う。
私どもの背景は特殊。昭和52年に村から公民館を作ってくださいということで、土地を提供して公民館ができた。だから土地は二つあるのではないかと思う。当時の自治会長が覚書を書いていたから数十年持っているわけだが。行政の指示に従ってきたのに急にそれを壊せと言われても困る。他に自治会が抱えているものは神社もあるが、それも移転して造った。昔が生えてる状況で、それを直すのも自分たちでやらなければならない。残された我々は大変な思いをしている。	
栗山地域のいいところは地域の助け合いが充実しているところ。いろいろな面で高齢者を支えて、料理を持っていったり、訪問したり、話し相手になったりして、高齢者については恵まれている。私たちの地域以外にも、公民館に高齢者を集めて体操をしたり、講話をしたり、健康づくりをしたり、健康づくりなどで頑張っているの、そういった面で栗山はいいところだと思う。心配は、医療と買い物。現在は隣近所で助け合っているが、だんだん無理になってくると思う。シルバー人材センターで搬送サービスをやっている。利用している人は助かっているが、利用するための条件が厳しすぎる。また、利用できても、病院の往復しかできない。実態を考慮した柔軟な対応を市でできないか、実情を調べていただいて、住民の願いをサポートしてもらえるとありがたい。シルバー人材センターに聞いたら市の規則で決まっているのでダメですということだった。	
私も家族に勤められて免許証を返納した。通院の際は子どもに送迎を頼んでいるが、都合がつかないときはタクシーを使っている。タクシーを使うと日光医療センターまで7,000円かかる。鬼怒川温泉駅からだと5,500円。11,000円のタクシー券はもらっているが、1回でなくなってしまう。バスは1時間に1本もない。鹿沼のデマンドタクシーをテレビでやっていた。	
	リーバスが無料になったと。
電話をすればすぐ来てくれるとか。家族に免許証を持っている人がいると、そういうことは望めない。危ないから返納するにしても、返納できない理由は多々あると思う。	
	日光市は、どの地域に住んでいても一律金額はきまっている。今市から病院に行くのと栗山から行くのとでは金額がまったく違う。議員の方で将来的に働きかけをしなくてはいけないことは把握している。地域によって距離が違うので距離に応じて金額の上下があっても公平性に欠けないと思う。
免許返納しなさいと言われても返せないのが実情。事故を起こしてからでは間に合わないと言われ、返納した。	
	プレーキ安全対策車で5万円、70歳以上の人が対象で、300万円以下かな。
	合併して、地域公共交通を充実させないといけませんが、足尾地域や栗山地域はしぼんでいるという感じ。

開催日時	令和元年9月24日(火) 午前10時～ 午後11時25分
開催場所	栗山公民館
川俣地区で、東京電力が地熱発電の調査を行っている。場所的には、川俣地区の一番奥。調査に入っていて3,4年になると思う。試験的な掘削を行っているが、GOサインが出ていない。それが決まれば高齢者が多い地区に若い人が残ってくれる、入ってこられる地区になると思う。決まったら市や議員のお力添えをお願いしたい。	
	地元のメリットは、雇用も含まれるのか。
雇用も含まれる。市にとっても固定資産税などの税金が落ちると思う。それに伴って環境の整備もできる。今は具体的な話にはなっていない。	
道路関係でお願いしたいが、これから奥にいくと、道路に枝が下がっているところがいっぱいある。観光バスも嫌がって入ってこないような状況。県・市はスーパー林道の枝払いはやっている。来月から紅葉の時期だからお願いしたい。	
	定期的にはやっていますか。
やっていない。観光バスはそれをわかっていて入ってこない。村のときは毎年やっていたが、市になってからあまりやっていない状況。若間でこれからトンネル工事が始まる。環境調査を行っている。あまりにも時間がかかる状況なので、できれば急いでもらいたい。上から石が落ちたり、下が抜けたり、非常に悪い。県に問い合わせたら、なんとも言えない状況ですと言われた。	
日向でひだまりという施設を運営している。皆さんに喜んでもらえる施設になっているが、補助金のことで地域性を考慮していただきたい。一日の延べ利用者を8名確保すれば、補助金が増額となる。総人口が少ない所ではそれがとてつもなく難しい。地域の方は施設を盛り立てるために協力してくれている。私たちもそれに応えるために行事を行いたい、それにはお金がかかる。	
	お話しされたように、活躍していることはお聞きしている。市ではオアシスの他にサロンをつくろうと大騒ぎしている。ただサロンの場合は補助金が見つからない。オレンジサロンには補助金がでている。その調整が遅れている。
地域性が大きいのしかかっている。栗山地域がダメというのではなく、人口密度が少ないことを大前提にもう少し行政の方も考えて欲しいと思う。	
	その考え方はオアシス事業だけでなくすべてに当てはまる。これだけ広い日光だから、ただ一つの基準に合わせて全部を統一して事業を展開するといっても無理な話。人口の多い今市で人を集めるのと栗山で人を集めるのとでは全く質が違う。その人数の基準をお互いに合わせて補助金を出すということは、それこそ不公平になる。オアシスの事業でもおっしゃるとおりだと思う。
免許返納に関して、返納すると1年ぐらいは面倒を見てくれるがそれ以降はなにもない。生きているうちはフリーパスのようなものを発行してほしい。タクシー券も通年いくらかずつでもいいので、生涯利用できるような形で発行してもらえれば、免許返納もしやすくなるのではないかと思う。家の後ろの県道に400メートル位のトンネルがある。照明器具は都会に負けないうぐらいついていないが、ライトが3個しかついていない。両脇の歩道を歩くときに危険なので全部とはいわないが明るく照らされるくらいの照明をつけてほしい。旧市町村でそれなりの歴史をもった伝統文化があるが、地域ごとに100年～120年くらいの歴史や民俗伝統を見られるようなハコモノが一つでもあればいいと思う。藤原地域では消防署を壊しているが、壊すときは手早く壊していると感じる。	
	トンネルの照明が暗いというのは節電でつけていないということでしょうか。
そうだと思う。ウォーキングしている人もいるが、山の中を歩くのは不安のようで道路を歩くのが中心になっている。	
グラウンドゴルフを旧日向小中学校でやらせてもらっているが、雨の時はできないので、室内を借りて何かやらせてほしいと思っている。できれば旧日向中学校の体育館を開放していただきたい。	
	閉校になって全然使っていない所ですか。
防災施設になっている。	
	統廃合になった小中学校は、その利活用の取扱いについて最初は地域の方たちと教育委員会が意見交換会を行うように決められている。ですから旧日向小中学校はどのようになっているのでしょうか。

開催日時	令和元年9月24日(火)午前10時～午後11時25分
開催場所	栗山公民館
旧日向中学校を所管しているのは資産経営課(？)。体育館が防災施設で校庭は普通財産になっている。今までの校舎について、日向としては使い道がないような感じ。八丁の湯のオーナーが日本語学校をつくりたいと、日光市を巻き込んで始めたが、話はなくなったようだ。	
	そう考えると体育館の活用というのは。
	雨の時に使いたいということですよ。
管理体制がどのようになっているかはわからないが、いざ防災で必要になった時に、速やかに開放するという話は聞いている。鍵は一切預かっていない。	
	【栗山行政センター長】グラウンドゴルフで校庭を使うときに雨の場合には体育館を利用するというお話はなかったが、現実的に使用できないということはないと思う。
	鍵の管理なども含めてあとで栗山行政センター長に聞いていただいて。
ゴミが有料化になって、段ボールや空き缶は無料。発泡スチロールは藤原町のクリーンセンターがあったころは無料だった。高德のクリーンセンターで発泡スチロールを成型し直して集荷していた時期もあった。できれば発泡スチロールも無料にしていただけるとありがたい。	
	スーパーで魚などを載せているトレイですか。
トレイでなく梱包に使っている発泡スチロール。	
地域が合併して過疎地域、限界集落というところは、足尾地域や三依地区、栗山地域にしても問題は同じだと思う。限界集落を今市と同じような条件でやっていけば平等性に欠ける。今市は恵まれている。市は限界集落などに目を向けてもらいたい。 お祭りはこの地域に生まれれば懐かしいわけで、ある程度年齢を重ねるとみんなで集まってなんとか盛り上げようとする。若い方も一生懸命やっているので祭りなどの手伝いや活性化のためにバックアップができるようなアイデアを市の方で出していればありがたいと思う。	
	お越しいただいた方にひととおり意見を出していただいた。付け加えや要望も出して構わないが、基本的に免許返納、公民館の維持の関係、畑の野生動物対策などを出していただいたが、直接私たちが市長になんとかしてくださいという流れにはならないのだが、地域の自治会の方たちの要望は出していたり、要望先も県の土木だったり、市長だったり。地域でストレートにやった方が早い場合もある。
お話をたくさん聞いていただいたが、要するに地域性を認めてほしいということ。地域の数ではなく、特色や独自性などをうまく政策やいろいろな行政の流れに乗せて欲しいということだと思う。行政は高齢者対策など確かにいいことをやっているが、全市一律。今市地域の発想になっていると思う。栗山地域としての意見が届いていない。行政センターの所長にも少し計画に参画できるような仕組みができると栗山や足尾として人数の枠を広げたり、減らしたり、特例を設けることができると思うので議員さんにも活躍していただきたい。地域性をもう少し上げられるような意見を議会で述べてもらえるとありがたい。より一層地域住民のためのいろいろな政策や施策になっていくと思うので議員さんもそのことを頭に入れて活動していただきたい。	
	他の議員にも話を聞いていただいて、地域を理解していただくことが一番だと思う。お金がないということで、人口に比例したお金を使っている中で、人口の少ないところには予算が少ない。五十里ダムから始まって、川俣ダム、川治ダム、湯西川ダムをつくってきた中で、出ていった方たちに言わせると、かなり栗山地域の住民の生活は苦しみを与えられてきたということ。その代わりにダム関係の財源で、栗山地域の地域づくりをやってきたことは間違いない。今の日光市のお金がないから施設が減りますという考え方に、非常に矛盾を感じる。だから、私は一般質問をするときなどは、地域の話ばかり。地域の話をして、地域の状況を理解してほしいが、多くの賛同を得なければ、執行部の考え方にブレーキをかけることができないと思う。地域をつくるにはコミュニケーションが欠かせない。栗山村時代につくってきた自治会の集会場は、いろいろな課題を解決するために地域が1つにまとまり、その施設に集まることができはじめて地域の方たちの意見を聞くことができるわけである。そういった施設は日光市には関係ないという考え方は、栗山地域では受け入れられない。今までの地域づくりの流れを理解しながら、それに合わせた行政をやってもらいたいということ、会派の皆さんにも言っている。集まっていた皆さんから聞かせていただいたということは、他の議員にも勉強になったのではないかなと思う。

開催日時	令和元年9月24日(火)午前10時～午後11時25分
開催場所	栗山公民館
	チラシをもらって会議があると聞いたときに、栗山地域全体の自治会長が集まり、意見や要望がある地域の方が集まる会議かなと思っていた。ところが、湯西川地区と栗山地区は別に行くということだった。私個人としては、栗山地域全体の起こっている問題を、議員さんと討論するために会議を開くのかと思っていたので、その辺を聞くことができなかったのが残念だった。その中には共通するものもあるだろうし、特徴的なものもあるので、議員さんも直に生の声を聞いていないものだから、聞かないと温度差というか、感覚的なものが違うのではないかと思った。その点は残念だったと思う。他の自治会長もお互いが思っていることを聞いた上で、栗山地域の連合会としてあるわけだから、いかなものかと思った。事務局に聞いたところではわからないということだった。
	今回の地域を分けたのは、それぞれの地域から声を聞こうということが基本的な趣旨で、栗山全体を何とかしようということでは残念がらなかった。
	西川は、大勢の自治会長さんが来ている。日光市に合併してから栗山地区を2つに分断したようなかたちの会議の仕方をしている。栗山地域に1つだけ残っている組織というものは、例えば、消防団や自治会連合会。連合会に加入している自治会長さんは、その連合会を動かしながら栗山の意見として、執行部や議会にも届けるという考え方をしている。その集まりを、つくっていかなくてはならないと思う。ただ、行政のほうが集まってくださいというときや、今日みたいに議会に意見を聞かせてくださいというときに集まるだけの、自治会の組織ではダメだと思う。栗山全体の考え方を理解しながら、やってほしいと思う。自治会長もみんなが同じ考え方なわけではないと思う。栗山地域の意見をまとめてもらえるといい。
	今日のお話はおっしゃるとおりで、1人でも多くの議員に聞いてもらうことが大切。我々議員は24名いるが、基本的に地区を代表して活動しているので、意外と広い日光市で、全部のいろいろな情報を把握しているのかというと、していないことのほうが多いと思う。議会報告会もいろいろな試行錯誤をされていて、今年は今回のように4名ずつ5グループをつくって市内を分担して、議会報告会を開いているが、実は最初は24名が1カ所に集まって、24名対地域の方たちというやり方をしてきた。常任委員会単位で7名ぐらいいわかれて、いろいろな関係団体と意見交換会をさせていただいたこともある。どのかたちが一番いいのかわからない状況。もしこの話を全員の議員が聞いたら、大きな話になったかもしれない。そこは我々議員が今後の意見交換会のやり方として、ぜひ参考にさせていただきたいと思う。
	私も過疎地域、限界集落にいますので、合併後10年までは、オーダーメイドのまちづくりというのを言っていた。要するに洋服に例えると、栗山に今市の洋服を着ると言っても、着られない。だから、栗山は栗山の洋服をつくらなくてはならない。それがオーダーメイドのまちづくりというものだ。それが、お金がなくなると引き締めがくるので、その辺でもう一度見直して、無駄なところがあるだろうと、必要としないのに補助金がきているところもあるので、本当に必要なところにお金は使うべきだと思う。これからは貴重なお金になるので、そういうことを今日は強く思った。一律カットで、山間地はだんだん下げていっているのかという問題ではないと思う。お金がないだけに知恵を出し合いながら、地域の人たちはその中で何ができるのかを考えていくことが必要だと思う。もう1つは、昨日足尾地域の方とお話をしたが、都会の息子さんのところに行った人がなかなかじめなくて、やはりみんなの顔を知っていて、何かあればすぐに来てくれるようなコミュニティは、都会では味わえないものだと感じた。いかにここで有意義に暮らせるかが、最も重要だと思った。
	私は山越梯一議員と同じ会派で、日ごろから会派の10名は、山越議員から栗山地域のお話を聞いている。ただ、実際にお話をお聞きしたということは初めてで、改めて地域サービスの格差というのを知った。齊藤議員がおっしゃったとおり、広い日光市だから、全ての物事が一律で済むということはない。各地域に合わせて、行政が落とし込んだサービスをしていく必要性を、改めて感じたので、その辺はこれからの私の議員活動の1つの考え方としてしっかりと持たせていただいて、市のほうに対して様々な意見や提言を申し上げていきたいと思っている。今日はこの場で、皆さんのお話をお聞きしたことが、ものすごく勉強になった。引き続きしっかりと頑張ってください。皆さま方も、ぜひ地域のほうで頑張ってくださいますよう、よろしくお願ひしたい。

開催日時	令和元年9月24日(火)午前10時～午後11時25分
開催場所	栗山公民館
	<p>今回の皆さんの意見は、この班でまとめて活字として、議員全員に返すことになっている。その報告書が完成したら、参加された方にも返す流れにはなっている。ここで出された個別の免許返納の関係や、地域格差、地域の特徴を生かした政策や、公共施設マネジメントの公民館の位置づけの問題とかも含めて、貴重なお話しありがとうございました。私は地区的には今市に住んでいて、生まれは旧日光。今市は今市の要望があり、栗山は栗山なりの要望があって、同じレベルの生活やサービスが、合併してどうなるのかなというのがある。限界集落という言葉もあるが、普段の生活が成り立たなくなってしまつては元も子もないわけなので、皆さんにいただいた意見は、全員に返しながら進めていきたい。10月上旬に会派ごとに要望を、市に出すということになっている。会派ごとにいろいろな要望があると思うが、そういうところに個別に反映できるものがあれば、相談にのつてもいいのかなという思いがある。市長が出向いた懇話会があって、そこでは執行部が揃っていて、提案をもらったら検討するということがあったが、市長もお金がないという話をしたり、要望を聞いてきたりしているの、執行部から提案があって、それを議会が決めるという流れになっている。出された意見で議会として、どのようなかたちになるかわからないが、議員全体の意見として、皆さんの暮らしそのものが一歩でも二歩でも進んでいけるように、やっていきたいと思っている。</p>
【班としての総括・所感】	<p>栗山地区の意見交換会は、自治会の役員や高齢者支援施設の方など13名が参加されました。人口減少と高齢化になっているが、地域の助け合いと公民館事業で、体操、健康づくりで頑張っている意見がありました。遠隔地のため病院や買い物心配な意見。人口密度が少ない地区に住む市民と市の中心部に住む市民との行政サービスの格差が指摘され、行政の柔軟な対応を求める意見。集会所の管理や獣害被害対策についての意見。自動車免許を返納したが、市営バスでは不便なためタクシーを利用すると、片道7,000円にもなり、地域内交通の充実を望む意見がありました。「市民サービスの格差」については、率直に議員が受け止めなければならない課題です。市民平等に施策を実行するとともに、地域の特色を生かした政策に知恵と力を注ぐことを考えた意見交換会になりました。</p>
【今年度の地区別意見交換会についての課題】	<p>「意見交換会」に参加される方は、市と議会へ「要望」を持ち寄る企画と受け止めている方が多い。自治会役員中心にご案内するのでやむをえないが、テーマを改善する必要があると思います。</p>
広報広聴委員長 様	
	上記のとおり、報告いたします。
	令和元年12月20日
	第3班 代表者 福田 道夫